

## 9. 「冷戦の終結」を学ぶにあたって

### 1. 冷戦の終結について

#### (1) 歴史総合の教科書での扱い—項目が多いという問題点

歴史総合の教科書では、戦後の「グローバル化」の部分のページ数が多く、15項目程度あり、時間軸に沿って、順次記述が続きます。この指導案では、時代ごとにいくつかのテーマを選んで取り上げてきました。古い時代は、1つの主題に多くの内容が詰め込まれ、抽象的になりすぎて具体的な事象が見えにくかったのではないかと思います。その一方で、戦後の部分については、逆に項目が細かくて多すぎ、また、取り上げる事象の配列も教科書によって異なるため、何か一つの項目を取り上げて指導案のサンプルを示しても、それぞれの教科書における前後のつながりが見えません。何が学習済みで、何が次の学習事項なのか、教科書によって異なるからです。

#### (2) 本教材における扱い—個別の事件は生徒がその得意言語で調べればよい

本教材の最後のテーマは「冷戦の終結」として、各教科書が「冷戦の終結」について数ページで記述している範囲だけではなく、その前後も含めて、冷戦後の30年間でどういう時代になっていったのかを見通したまとめになるように考えました。

その結果、個別の紛争についての説明はほとんど省きました。「3.2 ワークシート」だけ見たのでは、何が起きたのかわかりません。実際、それらを一つ一つ学べる時間を確保できる学校は少ないでしょう。そこで、大きな流れが把握できたら、個別の事件・紛争については各生徒がそれぞれに調べればよいと考えました。その方法を次節以降に記述します。

### 2. 得意言語を活用した動画コンテンツの学習について

#### (1) 日本語が母語ではない生徒の困難な状況

日本語が母語ではない生徒のために設置された「取り出しクラス」で授業を受けている生徒たちは、日本語力が十分ではないため、教科書を日本語で読んで理解することも、教科担当の先生が授業で話す内容を十分に理解することも困難です。だからこそ、「取り出し」授業が必要であり、生徒の状況に配慮した授業が必要になります。

#### (2) 日本語力不足が招く教科学習の困難点への支援

##### ① 日本語を母語としない生徒の日本語力に配慮した「予習用」教材の提供

しかし、共通の教材としての教科書が理解できない場合、予習・復習を自力ではできません。歴史総合は、内容が非常に多く、しかも中学校の歴史学習が終わっていることを前提としています。生徒たちの日本語力に配慮した取り出し授業で、歴史事項を丁寧に説明する時間はありません。そこで、社会科オンライン教材「歴史総合」では、「やさしい日本語」によるテキストや重要語句説明、さらに、その英語訳・中国語訳を作成し、それを使って予習し、ある程度内容を理解して授業に参加する「反転学習」を前提にしてきました。

## ② ①の不十分な点

しかし、生徒の日本語力に配慮した教材は、全部の単元を網羅しているわけではありません。また、滞日期間が短く日本語力が低い生徒は、その分、母国の学校での学習年数が長く、母語や、授業言語として英語を使ってきた期間も長いことから、予習・復習にはそれぞれの得意言語で情報検索をする方法も十分に考えられます。ただし、それぞれの言語で提供される情報は、日本の歴史教科書とは記述が異なることも多く、同じ知識の土台に基づいて授業を行うことができません。

## ③生徒の母語や得意言語を活用する ICT の利用

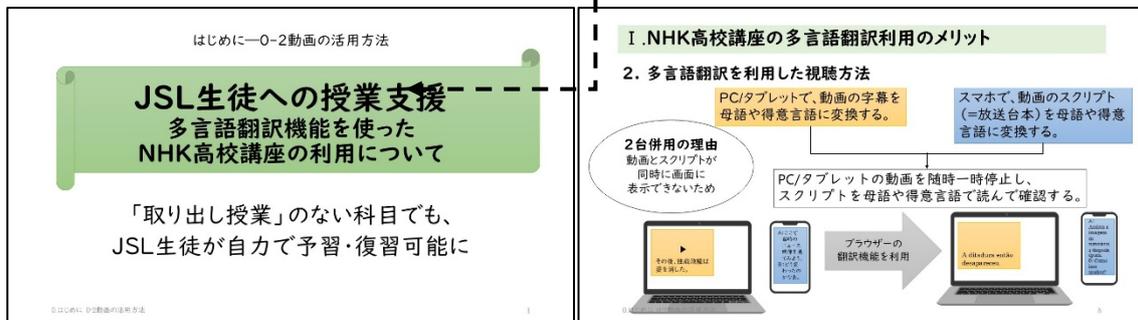
そこで、このシリーズで提供した単元以外も含め、授業に活用できる予習・復習の方法として、母語や得意言語を活用して映像コンテンツを、見る/読む方法をここに提案します。

NHK の教育用映像コンテンツのうち、新しく制作されたコンテンツについては、動画の字幕を多言語に変換できます。また、動画のスク립ト（=放送原稿）を表示することもでき、それを多言語に翻訳できます。

## ④NHK 高校講座の多言語利用の方法

### a) 生徒の母語や得意言語で自力で学べる方法

NHK 高校講座は、Google Chrome や Microsoft Edge などのブラウザの翻訳機能を使えば、全科目、多言語で利用することができます。動画の字幕や説明書きを母語や得意言語に変換する方法については、「0-2 動画の活用方法」をダウンロードしてご覧ください。



上記の方法を生徒に伝え、生徒たちがやり方に慣れてしまえば、生徒の母語や得意言語で内容を理解して、予習することができます。「歴史総合」だけでなく、「日本史探求」「地理総合」「公共」の社会科科目に加え、数学や理科、保健など他の科目、「取り出し授業」がない教科も、自力で学ぶことができるようになります。

生徒に配付するマニュアルは、「歴IX-2.1 動画を見よう（英語版）」「歴IX-2.2 動画の見方」（日本語版）を用意してあります。

### b) a)の方法が向かない生徒

滞日期間が長く、その分、母語で学んだ期間が短い生徒が多言語翻訳を使用する

には、問題があります。母語力がスクリプトを読み込むレベルに達していないからです。英語力も同様です。同時に、日本語の学習言語能力も獲得できていない生徒もいます。つまり、どの言語の力も学習に必要な能力に達していない場合は、「やさしい日本語」を使った教科学習で、徐々に言語能力を高めていく以外に方法はありません。

### 3. 動画視聴の学習上の役割

本单元「8. 冷戦の終結」では、予習の段階で母語や得意言語による動画視聴を取り入れました。現代の部分は、写真や動画が豊富に存在します。指導者側にとっては、自分の人生で見聞きしてきた同時代であり、動画素材を活用することによって、生徒たちにも時代をリアルに感じ取ってほしいと考えました。

「歴IX-2.3 予習プリント」は、NHK 高校講座「歴史総合」18回「冷戦の終結」の動画を視聴して答えるよう、その内容に沿った「問い」にしました。

### 4. 天安門事件の扱い

この回の動画では、1989年の天安門事件が取り上げられ、中国を独裁国家として指摘しています。中国の生徒たちは、不快に感じるかもしれませんが、「自国が日本からはそのように見られているのだ」ということを知る機会を提供しているともいえます。天安門事件についての情報は、母国にいたのでは得られませんが、日本の情報検索ではいくらかでも調べることができます。ブラウザの翻訳機能を使って、中国語に翻訳すれば、母語でいくらかでも読め、母国を離れて日本で生活するからこそ知ることができる情報ともいえます。情報を多角的に得て考える機会にもなると思われます。